

科目ナンバリング		U-LAS04 20036 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学基礎ゼミナールⅠ Introductory Seminar on Sociology I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 柴田 悠			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	教育・心理・社会(各論)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)				
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	火3		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
受講者各人が、現代のさまざまな社会現象や、自分自身の人生・生活上の問題について、自らの関心に即して、社会学などの先行研究(関心に最も近い査読論文1本以上)を参照・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。 さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。 またその際、担当教員は、社会学の思考法を活かした発言をすることで、社会学の思考法を参与的かつ実践的に伝授する。											
[到達目標]											
社会学の思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」(社会構造とコミュニケーションの相互作用)を、実践的な水準で分析・説明・議論できるようになる。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。 第1回 ガイダンス(発表の仕方、先行研究の検索方法)、受講者各人の発表日程の決定。 第2～4回 担当教員が見本発表を行う。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。さらに空いた時間で、先行研究の選び方の相談会を行う。 第5回～第12回 毎回1名が発表する。発表では、「社会現象や人生・生活についての問い」、「その問いに最も近い先行研究(査読論文1本以上)の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。 第13回 予備日 第14回 まとめの討論 第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(発表内容50点+討論参加50点=100点満点)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない											
社会学基礎ゼミナールⅠ(2)へ続く↓↓↓											

社会学基礎ゼミナールⅠ(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

[その他(オフィスアワー等)]

履修人数を発表スケジュールに適した人数(8名)に制限する。

また、「感染による履修上の配慮」が必要となった場合には、急遽、Zoomを用いたハイブリッド形式に切り替え、対面参加者もZoom上で発言をしてもらう可能性があるため、Zoomにアクセスできる端末(ノートPC等)とイヤホン(できればイヤホンマイク)を毎回持参すること。